

今回は、携帯電話（ガラケー）とスマートフォン（スマホ）のお話です。

「人生には3つのものがあればいい。希望と勇気とサムマナー」これは、20世紀の喜劇王チャールズ・チャップリンの言葉です。生きていくにはいくらのお金が必要なように、私たちの暮らしは消費活動と強く結びついています。

2014年に実施した全国消費実態調査では、9月から3カ月間、家計の収支および貯蓄・負債、耐久消費財、家計資産を調査しました。このうち、耐久消費財の調査結果をみてみましょう。

山口県の2人以上の世帯では、今回から調査項目に加えられたスマホの普及率は45.9%、ガラケーは、前回（09年実施）の91.9%から75.5%に低下しています。

スマホへの買い替えが進んでいるようですが、本県では、スマホの普及率が全都道府県中最下位（全国平均58.3%）なのに対し、ガラケーは14位（同72.3%）であり、まだまだ根強く支持されているのがわかります。

同調査から、通信費への支出を10年前（04年実施）と比較すると、8.4%増加しています。消費者としては、毎月の料金が安めでバッテリーが長く持ち、機能がシンプルなガラケーのよさに心ひかれますね。

一方、通信費は高めですが、地震や台風などの災害の時には、緊急速報や情報伝達のほか、SNSが安否確認などの手段として活用でき、スマホは頼れる存在と言えるでしょう。

さて、あなたはガラケーとスマホ、どちらを支持しますか？

ガラケーとスマホの
1,000世帯当たり所有数量と普及率（山口県）

